

流域治水対策(下水道)【国土交通省】



事業概要

近年浸水実績がある等、浸水被害の危険性が高い地区において、浸水被害の防止・軽減のための雨水排水施設など下水道による都市浸水対策を実施

効果

大雨による浸水被害を防止、または大きく軽減

全国的な対策と効果

対策 全国で雨水排水施設等を集中的に整備

排水ポンプの増設



自然に排水できない雨水をポンプで揚水して公共用水域に放流する

雨水貯留管の整備



管きよ型の貯留施設で、管きよやポンプ等の排水能力不足を補完し、雨水を一時貯留する

雨水調整池の整備



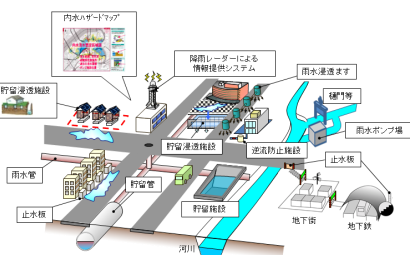
箱型や掘り込み式の貯留施設で、管きよやポンプ等の排水能力不足を補完し、雨水を一時貯留する

既設下水道管の増径



老朽化した管の改築等の機会に、下水道管を増径し、排水能力を向上させる

下水道による浸水対策のイメージ



「流域治水」の考え方に基づき、気候変動に伴う降雨量の増加や短時間豪雨の頻発等を踏まえたハード対策の加速化とソフト対策の充実による総合的な浸水対策を推進

5か年加速化対策の効果

直近の大雨と過去に大規模な浸水被害をもたらした同規模の降雨による浸水被害の比較

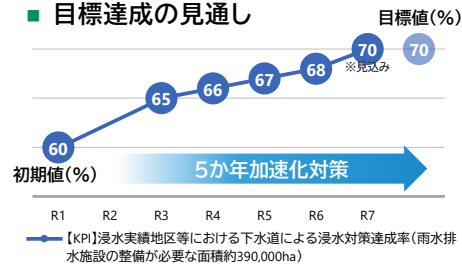
① 愛知県岡崎市	【H20.8 豪雨】	980戸	➡	【R7.9 豪雨】	0戸 (約 100%減)
② 三重県津市	【H16.9 豪雨】	165戸	➡	【R6.8 豪雨】	0戸 (約 100%減)
③ 埼玉県川口市	【R8.2 豪雨】	道路冠水80cm	➡	【R5.6 豪雨】	道路冠水0cm (約 100%減)
④ 高知県中土佐町	【H26.8 豪雨】	27戸	➡	【R4. 台風4号】	0戸 (約 100%減)
⑤ 熊本県八代市	【H24.7 豪雨】	50ha	➡	【R3.8 豪雨】	0ha (約 100%減)

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
204億円	156億円	160億円
R6	R7	累計
171億円	152億円	843億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



効果発揮事例

雨水幹線等の整備により、雨水を河川に排除し浸水被害を軽減する



三重県津市

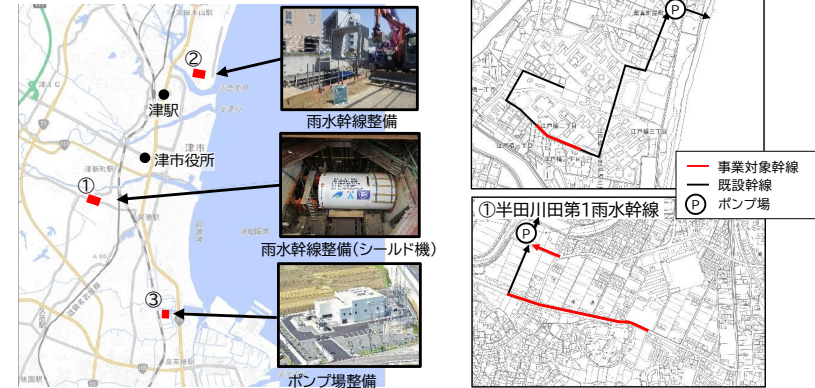


三重県津市(半田川田、栗真町屋、天神排水区)



藤水地区ほか大規模雨水処理施設整備事業など

位置図及び整備状況



事業費

57億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)3.9億円)

事業の背景(地域の課題)

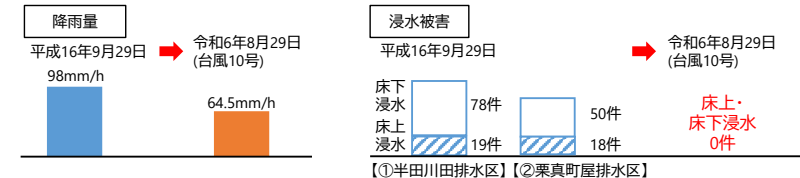
【①半田川田および②栗真町屋排水区】
平成16年9月末の台風21号では、半田川田および栗真町屋排水区で床上・床下浸水が発生しました。
【③天神排水区】
平成29年10月下旬の大雨時はポンプ場周辺が道路冠水し、交通遮断が発生しました。

事業の内容

内水氾濫が発生するリスクが増大しているため、浸水被害の危険性が高い地区において、速やかに雨水を排除させるため下水道(雨水幹線等)の整備による都市浸水対策を実施しました。
【①半田川田排水区】半田川田第1雨水幹線(断面)内径2.0~2.8m(延長)約300m
【②栗真町屋排水区】町屋第2雨水幹線(断面)2.0m×2.0m(延長)約300m
【③天神排水区】天神ポンプ場(雨水排水ポンプ1台 160m³/分)

効果

①及び②の効果: 平成16年9月末の台風21号では、半田川田および栗真町屋排水区で床上・床下浸水165件が発生しましたが、雨水幹線の整備等により、令和6年8月末の台風10号に伴う大雨時は、床上・床下浸水の被害がなく、浸水被害を防止しました。



(1) 1
人命財産の被害最小化
激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 2
交通・ライフラインの維持
インフラの老朽化対策

(1) 3
施策のデジタル化
国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2) 災害関連情報の高度化